

青木 裕次

何も恥ずかしがることはありません

「まもるいのち ひろめるほうさい」（守る命 広める防災、あえて漢字を使うと、このように書けるでしょう）。これは、日本赤十字社が、平成27年に作成し、全国の全小・中・高校に配布した冊子です。ご覧になったことはありませんか。見たことも利用したことないという方は、一度手にとってご覧下さい。どの学校にも一冊はあるはずですよ。

日 本は地震、津波、台風、火山噴火、集中豪雨など様々な災害に見舞われています。災害時にどのようにして自分の身を守るか、そして生かされた自分が、人々と協力し合いながら人のために何が出来るかを学ぶための一助として作成された防災教育プログラムです。先方に活用してもらうために、指導案で示され、参考映像をDVDに、ワークシートや作文・写真教材をCD・Rに納めて付しています。この冊子を作成するに当たり文部科学省、消防庁、人と防災未来センター、防災科学技術研究所等のご協力を得ると共に、全国の小・中・高校の先生方にもご意見を伺い指導案形式でまとめています。青森県内の高校の先生も、その中のメンバーの一人として協力しました。

この冊子が出来る前から、日本赤十字社東京都支部では、災害学習プログラムの事業として、都内の学校に向き、災害・防災に関する講座を実施しています。現在は支部の全職員が協力し対応しています。私が青少年赤十字指導講師として勤務した当初は、青少年・ボランティア課の職員だけで年間百校に近い数の学校に対応していましたので、囑託の私も小学校から高校まで何校かの学校に向き講義や実技をさせて頂きました。

今 から数年前の12月中旬、墨田区にある都立高校定時制に向いた時のことです。ここで1時間、地震の知識と防災をお話するよう依頼されました。学校へ着くと直ぐ食堂に通されました。そこ

でお話しをするのだそうです。パソコンを持参しスライドを使って講義をする予定で打ち合わせをしていたのですが、先生方も忙しいのでしょう。まだその準備が出来ていず、私も手伝いながら準備しました。何とか準備ができた直後、生徒達が食堂に集まってきました。七、八十人ぐらいの生徒達が普段の授業とは違って、一つの机に四、五人が向かい合って座わり講座を受けるのです。定期考査も終わり、あと数日したら冬休みという開放感もあったのでしょうか。担当の先生が何度注意しても一向に静かになりません。開始の時間も過ぎていたので、始めて下さいと言うことで、私は生徒達の前に立ちました。しかし、彼方此方で私語は続いています。おしゃべりをする生徒達を黙って見回すだけで、私は話を始めませんでした。数十秒ぐらいでしょうか、私語をしている者達が私の視線に気付いて、徐々に私語を慎むようになりました。しかし、一番後の机を囲む四人は、平気な顔をして話し続けています。私は、前からゆつくりと彼等の机まで行きました。一体何が始まるのだろうか、自分達の方に近付いて来る私を見て、彼等が身構え口を噤みました。私は彼等一人一人の顔を確認するように見詰めてから、徐に前に戻り講義を始めました。そして一時間の講義を恙なく終えました。

帰 りに教頭先生（東京では副校長と呼んでいます）が、初めの時よりも一段も二段も丁寧にお礼を述べてくださった後、「お恥ずかしい限りです」とお話になりました。私はその先生に質問しました。入学した時よりも彼等は、少しでも成長していますか。「はい、少しは」そう副校長は答えられました。「それならば、何も恥ずかしいことはありません。頑張ってください」。私は、そうお話ししてお暇しました。

（元青森県立北斗高校校長）